

平成 29 年度  
業 務 年 報

目 次

1	沿革	1
2	業務概要	2
3	機構（組織・職員）	3
4	施設（土地・建物）	4
5	設備	5
6	業務実績	8
7	役員名簿	13

宮崎県機械技術センター  
公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

〒882-0024 延岡市大武町 39-82

TEL (0982)23-1100

FAX (0982)23-1104

URL <http://www.mmtc.or.jp/>

E-mail [info@mttc.or.jp](mailto:info@mttc.or.jp)



## 1 沿革

県北における工業技術に関する試験研究指導機関の歴史は、昭和 11 年に都城市北原町に設置された県立工芸指導所の延岡分所に始まる。その後、昭和 14 年に機械工訓育所が併設され、県北の産地型技術指導機関として中小企業の技術指導と技術者の養成に貢献した。しかし、戦後の混乱期に、これら指導所、訓育所は相次いで閉鎖の止むなきに至った。

その後、昭和 22 年に、戦後産業復興の一環として、工業の振興が本県産業の振興に寄与するとの観点から、昭和 23 年 3 月、県都宮崎市に、工業技術の振興を図るための総合的試験研究指導機関として県立工業試験場が設立され、都城市にはその分場として、昭和 22 年に設置されていた木工技術員養成所を吸収合併し、都城分場が設置され、その内容の充実が図られた。このような情勢の中、工業集積の高い県北では、昭和 35 年頃から、都城分場に対応する延岡分場の設置要望が起り、特に、昭和 39 年に日向延岡地区が新産業都市の指定を受けて以来、分場誘致運動が活発となり、さらに、昭和 49 年に延岡市に鉄工団地が建設されたことで、機械・金属工業部門の技術指導機関設置への要望が一段と高まった。

これらの地元の要望に応じて県では、昭和 54 年 4 月に、第一次オイルショック後の県北の特定不況地域の指定に対応する施策の一環として、延岡市大武町に宮崎県機械技術センターを設立することとなった。

また、平成 18 年 4 月に、県から宮崎県機械技術センターの指定管理者として指定を受け、さらには、平成 25 年 4 月から「公益財団法人」として新たなスタートを切り、現在に至っている。

昭和 35 年	延岡商工会議所より工業試験場分場設置について陳情
昭和 45 年	延岡商工会議所より機械金属技術指導機関の設置について県に要望書提出
昭和 48 年	延岡鉄工団地協同組合より工業試験場分場設置について陳情
昭和 50 年	延岡市議会議長より県工業試験場延岡分場誘致に関する陳情書を県に提出
昭和 51 年	延岡市長、日向市長及び門川町長が連名で工業試験場分場設置について県議会に請願 県議会において請願採択
昭和 53 年	県議会において公の施設に関する条例の改正（宮崎県機械技術センターの設置）を議決 宮崎県機械技術センター建設工事着工
昭和 54 年	財団法人宮崎県機械技術振興協会を設立 宮崎県機械技術センター完成 宮崎県機械技術センター業務を開始。宮崎県は 4 月 1 日付けで宮崎県機械技術センターの 管理、運営業務の委託について、財団法人宮崎県機械技術振興協会と契約を締結 宮崎県機械技術センター竣工式を挙げる
昭和 55 年	昭和 55 年度より 3 ヶ年計画により指導設備の整備を実施
昭和 61 年	宮崎県機械技術センター強化整備計画により別棟工事着工（日本小型自動車振興会補助）
昭和 62 年	別棟工事完工 昭和 62 年度より強化整備計画による指導設備の整備を開始
平成 9 年	ホームページを開設し、情報発信機能を整備
平成 17 年	ホームページを再構築し、情報発信機能を強化
平成 18 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 1 期：H18～H20）
平成 21 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 2 期：H21～H25）
平成 25 年	公益財団法人宮崎県機械技術振興協会に移行
平成 26 年	指定管理者制度に基づき、宮崎県機械技術センターの管理者に指定（第 3 期：H26～H30）

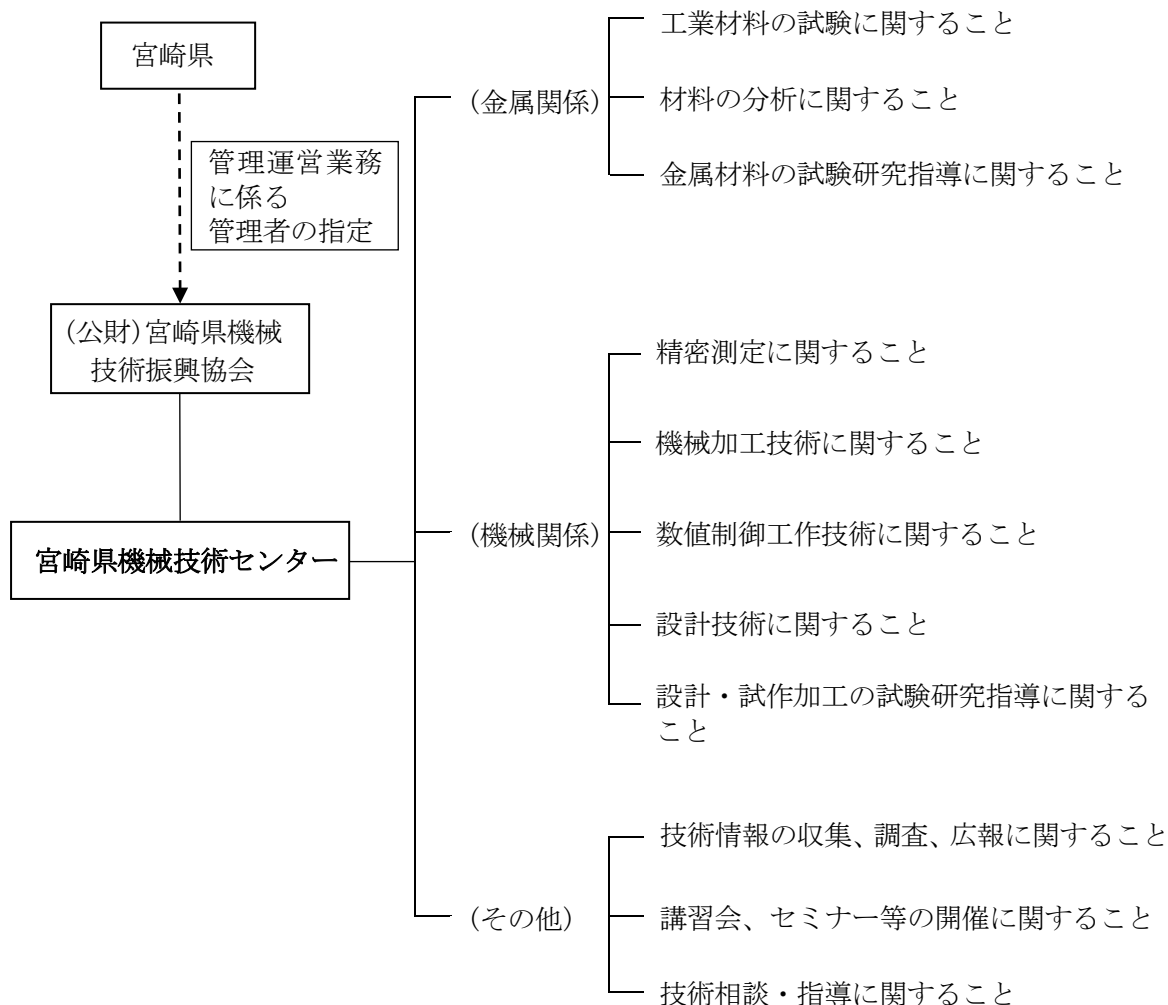
## 2 業務概要

宮崎県機械技術センター（以下「センター」という。）は、県内機械金属工業の振興を目的とし、主として県北を中心とする関連企業を対象に、機械金属技術に関する各種の支援業務を行っている。なお、当センターの管理運営は宮崎県の指定により、(公財)宮崎県機械技術振興協会がこれを行っている。

- (1) 技術の向上を目的とした業務
  - ① 技術相談・指導
  - ② センター機械設備の取扱研修の開催
  - ③ 技術講習会、技術セミナーの開催
  - ④ 専門家等派遣による現場指導又は技能伝承の実施
  - ⑤ ものづくりに係る品質向上の指導の実施
  
- (2) 試験研究に関する業務
  
- (3) 設備利用に関する業務
  
- (4) 依頼試験に関する業務
  
- (5) 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修に関する業務
  
- (6) 宮崎県工業技術センター等他機関との連携に関する業務
  
- (7) 補助金等申請に関する支援業務
  
- (8) 情報の収集と発信に関する業務

### 3 機構

#### 3-1 組織



#### 3-2 職員一覧

(平成 30 年 3 月 31 日現在 7 名)

職名	氏名	備考
所長	久木崎 雅人	(公財)宮崎県機械技術振興協会常務理事
事務局長	山口 英子	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
主査	知念 武志	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
主任技師	石黒 圭亮	宮崎県派遣職員
専門技師	福島 洋一	(公財)宮崎県機械技術振興協会有期雇用職員
技師	奈須 美喜	(公財)宮崎県機械技術振興協会有期雇用職員
主事	黒木 美保	(公財)宮崎県機械技術振興協会有期雇用職員

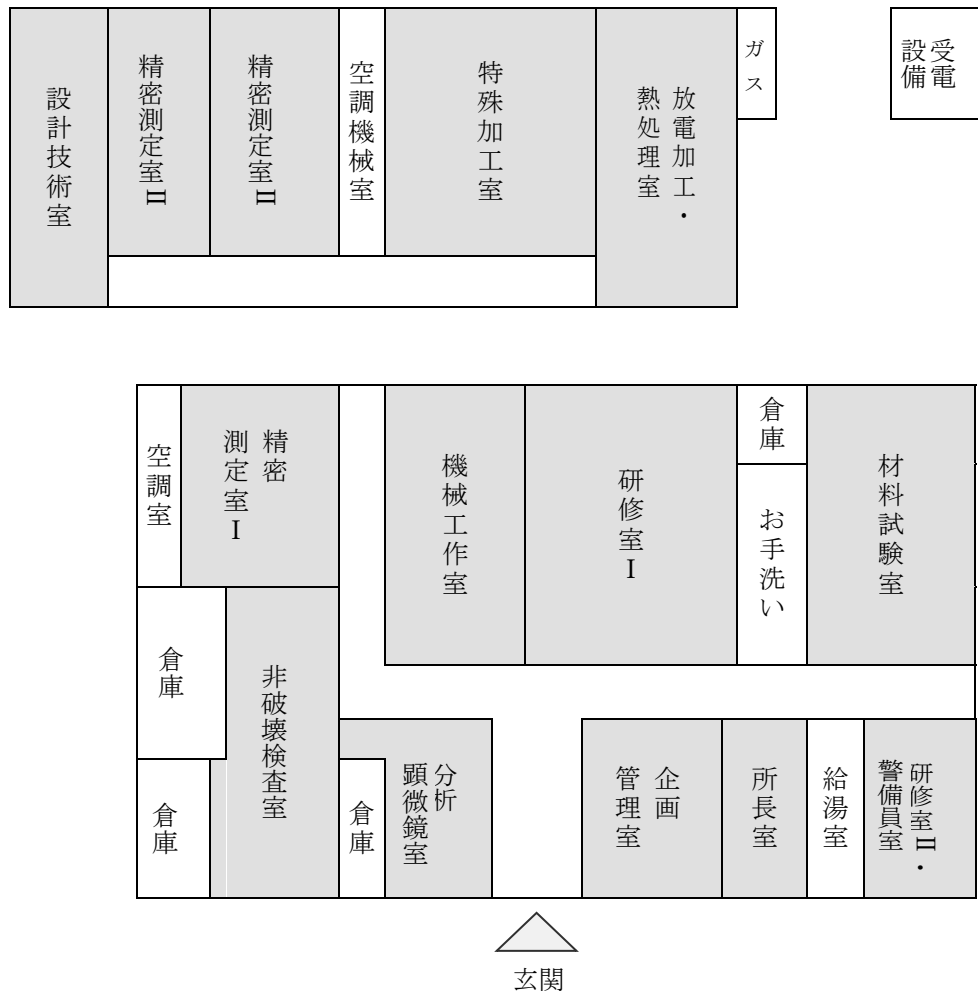
## 4 施設

### 4-1 土地・建物

所在地 宮崎県延岡市大武町 39 番地 82  
 敷地 2,682.45 m<sup>2</sup>  
 建物 787.59 m<sup>2</sup> (本館 540 m<sup>2</sup>, 別棟 226.5 m<sup>2</sup>, その他 21.09 m<sup>2</sup>)

企画管理室	30.3 m <sup>2</sup>	機械工作室	48.4 m <sup>2</sup>
所長室	20.2 m <sup>2</sup>	設計技術室	28.9 m <sup>2</sup>
研修室Ⅱ・警備員室	20.2 m <sup>2</sup>	精密測定室Ⅲ	21.4 m <sup>2</sup>
研修室Ⅰ	76.0 m <sup>2</sup>	精密測定室Ⅱ	33.2 m <sup>2</sup>
材料試験室	56.0 m <sup>2</sup>	特殊加工室	53.7 m <sup>2</sup>
精密測定室Ⅰ	42.0 m <sup>2</sup>	放電加工・熱処理室	45.0 m <sup>2</sup>
非破壊検査室	64.0 m <sup>2</sup>	給湯室	10.1 m <sup>2</sup>
分析顕微鏡室	40.4 m <sup>2</sup>	その他	197.79 m <sup>2</sup>

### 4-2 建物平面図



## 5 設備

### 5-1 主要機械設備

区分	設 備 名	製 造 会 社	型 式 ・ 能 力	設置年度
試 験 檢 査	万能材料試験機 (100トン)	島津製作所	UMH-100NIR型 (100t)	S 53
	万能材料試験機 (10トン)	東京衡機製造所	RU-10DA	S 56 ※
	工業用ファイバースコープ	オリンパス	IF8D4-15	S 63 ●
	ビッカース硬度計	明石製作所	AVK-C2	H 02 ●
	顕微鏡試料作製装置	丸本工業	ラボトム/プロントプレス-10	H 08 ●
	超微小硬度計	島津製作所	DUH-201S	H 08
	表面形状測定顕微鏡	キーエンス	VF-7500	H 10 ●
	ブリネル硬さ試験機	島津製作所	3000kgf	H 10
	三次元干渉測定顕微鏡	キヤノン	5010	H 11 ●
	デジタルロックウェル硬度計	アカシ	ATK-F3000L	H 12 ●
	オートグラフ	島津製作所	AG-5000B	H 05 ●
	超音波探傷器	湘菱電子	UI-23D	H 14 ●
	低真空走査電子顕微鏡	日本電子	JSM-6380LA/KM	H 16 ※
	デジタルマイクロスコープ	ハイロックス	KH-7700	H 21 ★
	マイクロビッカース硬度計	島津製作所	HMV-2	H 21 ★
	万能材料試験制御器 (100トン)	島津製作所	UH-1	H 21 ★
	超音波顕微鏡	日本レーザー	SAM300	H 21 ★
	サーモグラフィー	NEC Avio	H2630	H 23 ☆
	超音波プローブ	日本レーザー	100MHz	H 23 ☆
	動ひずみ測定ユニット	東京測器研究所	TMR-222	H 23 ☆
オートグラフ制御装置	島津製作所	TRAPEZIUM2	H 23 ☆	
蛍光X線分析装置 (エネルギー分散型)	島津製作所	EDX-8000	H 26 ※	
実体顕微鏡用デジタルカメラ	オリンパス	DP73	H 26	
赤外顕微鏡付きフーリエ変換赤外分光光度計	日本分光	FT/IR-6600・IRT-5200	H 29 ※	
熱 処 理	電気炉 (18 kW)	サーマル	STL-5	H 09
	放電被覆肉盛り装置	テクノコート	42-50	H 11
精 密 加 工	超精密平面研削盤	三井ハイテック	MSG-250H2	H 01 ●
	砥粒流動研磨装置	東洋エクステル・トホーン	Mark VII-80	H 03 ●
	NCワイヤカット放電加工機	西部電機	EW-A5S	H 17 ○
	NC成形放電加工機	ソディック	A35R	H 17 ○
	精密万能自動切断機	平和テクニカ	HS-45A IIS	H 17 ○
	ドリル研削盤	細井工作所	U-nice	H 13
	ドリルタップ盤	中根製作所	NXT-13DT	H 14
	万能工具研削盤	牧野フライス製作所	C-40	H 14 ●
平面研削盤	黒田精工	GS-63PF	H 21 ★	

	コンプレッサー	三井精機工業	ESCAL46R	H 23 ☆
精密測定	非接触二次元微細形状測定器	東京精密	サーフコム 920A	H 01 ●
	万能投影機	ミットヨ	PJ-311	H 01
	輪郭測定機	ミットヨ	CBH-400	H 02 ●
	CNC三次元測定機	東京精密	PA800A-V-60X	H 05 ●
	CNC三次元測定機	ミットヨ	FALCIO-Apex9166	H 18 ※
	真円度測定機	ミットヨ	ラウントテストRA-736	H 17 ○
	工具顕微鏡	ニコインステック	MM-100AU	H 17 ○
	工具顕微鏡画像ユニット	ミットヨ	QSPAK	H 23 ●
	表面粗さ測定機	東京精密	サーフコム 480A-13	H 17
	マシンチェックゲージ	レニショー		H 17
	ボールバーシステム	レニショー	QC10	H 19 ※
	ダイヤルゲージ検査機	ミットヨ	アイチェッカ IC1000/KM	H 21 ★
	輪郭測定器	東京精密	コンタ-レコード 2600E-13	H 21 ★
	CNC三次元測定機用制御器	東京精密	PA800A-V-41X	H 21 ★
	非接触三次元構造解析顕微鏡制御器	キャノンマーケティングジャパン	ZYGO	H 21 ★
	真円度測定ソフトウェア	ミットヨ	ROUNDPAK-CMM	H 23 ☆
	工具顕微鏡画像ユニット	ミットヨ	QSPAK	H 23 ☆
レーザー計測システム	レニショー	XL-80	H 27	
レーザー計測システム用オプションユニット	レニショー	XL-80	H 29 ※	
設計	CAD・CAM・CAEシステム	PTC ジャパン	Pro Engineer WildFire	H 21 ※
	CADデータ変換・修正システム	エリジオン	CAD doctor	H 21 ※
	非接触三次元形状測定機	コニカミノルタセンシング	Vivid9i	H 21 ※
	ラピッドプロトタイプング装置	Stratasys Inc.	Dimension BST1200es	H 21 ※
	熱流体解析システム	ソフトウェアクレイドル	SCRYU/Tetra	H 23 ※
	立体形状撮影システム	トプコン	Image Master Pro	H 23 ☆
	CAD用大型プリンター	キヤノン	Image PROGRAPH iPF 655	H 23 ☆
	試作支援加工システム	ローランド デージー	MDX-5000R	H 23 ☆
	精密自動回転ステージ	シグマ光機	KST-160YAW	H 23 ☆

※ JKA補助 ● 日本小型自動車振興会補助 ○ 活性化支援事業費補助

★地域活性化・経済危機対策交付金 ☆地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）



## 5-2 設備料金表

番号	設備名	料金単価 (円/時)	番号	設備名	料金単価 (円/時)
1	CNC 三次元測定機 (ミットヨ製)	3,305	28	NC 成形放電加工機	2,305
2	CNC 三次元測定機 (東京精密製)	3,305	29	NC ワイヤカット放電加工機	2,370
3	輪郭測定機	970	30	平面研削盤	815
4	万能投影機	505	31	砥粒流動研磨装置	1,245
5	真円度測定機	865	32	万能工具研削盤	755
6	三次元干渉測定顕微鏡	2,995	33	ドリル研削盤	335
7	工具顕微鏡	2,300	34	卓上フライス盤	85
8	非接触二次元微細形状測定器	2,135	35	卓上ミニ旋盤	60
9	低真空走査電子顕微鏡	1,800	36	ドリルタップ盤	55
10	表面形状測定顕微鏡	1,765	37	電気炉 (18 kW)	1,005
11	実体顕微鏡	730	38	放電被覆肉盛り装置	320
12	デジタルマイクロスコープ	1,445	39	表面粗さ測定機	410
13	工業用ファイバースコープ	215	40	マシンチェックゲージ	100
14	万能材料試験機 (100 トン)	905	41	ラピッドプロトタイピング装置	1,635
15	万能材料試験機 (10 トン)	1,595	42	CAD・CAM・CAE システム	3,840
16	オートグラフ	4,005	43	非接触三次元形状測定機	1,330
17	超音波探傷器	415	44	CAD データ変換・修正システム	1,090
18	デジタルロックウェル硬度計	360	45	超音波顕微鏡	1,235
19	ビッカース硬度計	630	46	ダイヤルゲージ検査機	420
20	マイクロビッカース硬度計	490	47	試作支援加工システム	1,445
21	超微小硬度計	2,105	48	サーモグラフィー	985
22	ブリネル硬さ試験機	325	49	CAD 用大型プリンター	1,500
23	超音波硬さ計	130	50	熱流体解析システム	955
24	反発式ポータブル硬度計	110	51	立体形状撮影システム	695
25	ボールバーシステム	665	52	精密万能自動切断機	610
26	試料研磨システム	425	53	蛍光 X 線分析装置 (エネルギー分散型)	1,790
27	顕微鏡試料作製装置	490			

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

## 6 業務実績

### 6-1 技術の向上を目的とした業務

#### 6-1-1 技術相談・指導

企業から寄せられた様々な技術相談や技術指導の依頼に対応した。

技術相談 402件（103企業）

技術指導 209件（延べ233人）

#### 6-1-2 研修会、セミナー等の実施

企業の技術の向上を目指して各種の研修会、セミナー等を開催した。

##### ① センター機械設備の取扱研修

11コース（延べ80人）

研修名	回数	延べ人数
熱流体解析システム操作研修	2	2
蛍光X線分析装置操作研修	5	6
低真空走査電子顕微鏡操作研修	2	2
NCワイヤーカット放電加工機操作研修	1	4
試料研磨システム操作研修	1	1
精密万能自動切断機操作研修	1	1
スモールツール操作研修	4	10
CNC三次元測定機操作研修	1	4
デジタルマイクロスコープ操作研修	1	1
技能検定・機械検査2級試験対策講座	7	20
技能検定・機械検査3級試験対策講座	11	29
合計	36	80

##### ② 技術講習会

5回（延べ71人）

実施日	講習会名	講師	参加人数
H29.7.14	IoT時代に向けた3次元CAD/CAM/CAE	オートデスク(株) 営業技術本部 清水元氏 製造営業本部 河上秀志氏	14
H29.8.10	RoHS規制に関する基礎知識と実機を使った分析	宮崎県機械技術センター 専門技師 福島洋一	4
H29.11.15	マイクロプラズマ溶接	ユテクジャパン(株) 南九州営業所 所長 峯浩司氏、岩澤芳光氏	11
H29.12.14	マイクロフォーカスX線CTの基礎と応用	(株)ニコン 商品企画課 副主幹 熊佐淳司氏	20
H30.2.8	FT-IR(赤外分光光度計)入門	日本分光(株) 光分析ソリューション部 樋口祐士氏	22

##### 各講習会の内容

IoT時代に向けた3次元CAD/CAM/CAE	3Dプリンタ、IoT、AIによって生産現場がどのように変わっていくのか、またCAD/CAM/CAEを活用したこれからのものづくりについて、多数の事例を交えて紹介した。さらに、実際にCADソフトを使用して、参加者にはモデリングから図面作成まで、一連の操作方法を体験してもらった。
-------------------------	--

RoHS 規制に関する基礎知識と実機を使った分析	有害物質規制について昨年実施した基礎セミナーを踏まえ、RoHS 規制の最近の改正点や REACH 規則の概要について紹介した。また、RoHS 有害 5 元素について、実機を用いてスクリーニング分析実習を実施した。 ※延岡地域雇用促進協議会主催・当センター後援で実施
マイクロプラズマ溶接	プラズマ溶接機の概要や特長について、TIG 溶接との違い等を紹介した。また、実機にて溶接機の取り扱い及び溶接方法について紹介し、プラズマ溶接のデモ体験を実施した。
マイクロフォーカス X 線 CT の基礎と応用	X 線 CT について、X 線の原理やマイクロフォーカスの特徴、内部構造の解析と欠陥表示、CAD データとの比較、撮像からボリュームデータの構築まで幅広く紹介した。
FT-IR (赤外分光光度計) 入門	平成 29 年 12 月に新規導入した、赤外顕微鏡付きフーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR) を周知するために開催した。講義では、赤外分光法の基礎、原理及び測定方法について紹介し、実習では、実機を用いた ATR 測定法での分析体験を実施した。

### ③ 技術セミナー

ものづくり企業にとって最近話題となっている IoT 技術をテーマとして、実際に IoT 技術開発に取り組んでいる企業の技術者を招聘しセミナーを開催した。

日 時： 平成 29 年 10 月 18 日 (水) 13:30～15:40

会 場： 延岡総合文化センター (延岡市東浜砂町 611-2)

出席者： 27 名

演 題： 「私たちにもできる IoT を活用したものづくり改善」  
～自社の効率化と顧客満足の向上を目指して～

講 師： 吉玉精鍍(株) 情報通信部 部長 畝原 広美 氏

内 容： 参加者に IoT 技術導入による自社生産性の向上の参考にしてもらうことを目的に、IoT 技術の概略説明と、自社で取り組んでいる事例について紹介があった。IoT 技術を導入することで、品質管理、設備管理及び原価管理の「見える化」が実現し、また工夫をすれば低コストで導入できるとのことであった。

#### 6-1-3 専門家等派遣による現場指導又は技能伝承

1 件 (延べ 4 回)

IoT システムの開発のため、情報技術に詳しい専門家を企業に派遣し、IoT インターフェース技術の現場指導を行った。

受講者	専門家	内 容	実施日
吉玉精鍍(株)	外山 真也 氏 (外山技術士事務所)	IoT インターフェース技術	H29. 8. 8
			H29. 8. 21
			H29. 9. 4
			H29. 9. 15

#### 6-1-4 ものづくりに係る品質向上事業

6 社 (延べ 7 件)

企業の製造現場で使用される工作機械等の精度を維持するため、職員を企業に派遣し、現場に検査装置を持ち込んで工作機械や三次元測定機等の精度検査を行った。

## 6-2 試験研究に関する業務

県北地域の企業と2件の共同研究を行った。1件目は、昨年度に引き続き、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の医工連携事業化推進事業実証事業「失明回避に貢献するポータブル視野計（POLIS）の開発・事業化」（事業期間：平成28年度～平成29年度）で、緑内障の簡易検査装置の開発に取り組んだ。共同研究機関は（株）昭和、関西大学、大阪医科大学、（株）イナミである。2件目は、特殊素材へのめっきプロセスに関して、当センターとの共同研究で取り組んだ。

## 6-3 設備利用に関する業務

設備名	利用件数	時間数	収入額（円）
CNC 三次元測定機	65	135	446,175
輪郭測定機	40	40	38,800
平面研削盤	29	99	80,685
表面粗さ測定機	16	22	9,020
NC 成形放電加工機	12	15	34,575
オートグラフ	11	12	48,060
ラピッドプロトタイピング装置	10	70	114,450
ダイヤルゲージ検査機	9	14	5,880
蛍光X線分析装置（エネルギー分散型）	7	8	14,320
CAD・CAM・CAE システム	7	17	65,280
その他	71	252	70,400
合計	277	684	927,645

## 6-4 依頼試験に関する業務

区分	試料数	収入額（円）
引張試験	150	357,000
曲げ試験	65	154,700
圧縮試験	235	358,375
顕微鏡試験	1	4,080
合計	451	874,155

## 6-5 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修

先進地 技術調査 (6回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第21回機械要素技術展（東京都）</li> <li>・第28回設計・製造ソリューション展（東京都）</li> <li>・第8回医療機器開発・製造展（東京都）</li> <li>・航空機関連産業セミナー（宮崎市）</li> <li>・金属3Dプリンターの最新技術動向調査（愛知県）</li> <li>・水素エネルギーに関する最新技術動向調査（宮崎市）</li> </ul>
---------------------	---

<p>新技術導入のための派遣研修 (19回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三次元測定機の検査講習（大阪府）</li> <li>・製品含有化学物質の規制に関する講習（東京都）</li> <li>・タングステン型走査電子顕微鏡の基礎と操作法に関する研修（東京都）</li> <li>・溶接曲げ試験の評価技術に関する勉強会（宮崎市）※2回</li> <li>・異物の分析評価に関する講習（大阪府）</li> <li>・最新3Dプリンターの活用セミナー（宮崎市）</li> <li>・金属材料の物性と評価技術に関する研修（東京都）</li> <li>・材料分析機器に関するセミナー（延岡市）</li> <li>・計算機支援工学(CAE)に関する研修（東京都）</li> <li>・X線分析顕微鏡の原理と操作に関する講習（宮崎市）</li> <li>・少子・高齢化時代に向けたロボット開発の現状に関する講習（宮崎市）</li> <li>・スマートファクトリー・ものづくりイノベーションセミナー（福岡県）</li> <li>・分析走査電子顕微鏡の基礎と操作法に関する研修（東京都）</li> <li>・FT-IR(赤外顕微鏡)基礎セミナー（東京都）</li> <li>・三次元測定機の基礎と操作法に関する研修（神奈川県）</li> <li>・電磁両立性(EMC)を考慮した設計・対策技術に関する講習（宮崎市）※2回</li> <li>・平成29年度工業技術センター・食品開発センター研究成果発表会（宮崎市）</li> </ul>
--------------------------------	---

#### 6-6 宮崎県工業技術センター等他機関との連携に関する業務

県工業技術センターの機器を活用した情報交換や人的交流を行いながら、県工業技術センターと連携して技術指導、技術相談、試験研究等に取り組んだ。

#### 6-7 研究会運営の支援

主に延岡鉄工団地内企業の若手経営者による研究会（チーム延岡 OX）や（一社）宮崎県工業会県北地区部会の新事業・販路開拓分科会等に定期的に参加し、技術的側面から情報提供やアドバイス等の支援を行った。

#### 6-8 補助金等申請支援に関する業務

11件（延べ13回）

設備投資や新事業展開のために外部資金獲得を目指している企業に対して、ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金や宮崎県産業振興機構の各種研究開発資金などを紹介し、申請書作成の指導を実施した。また、成長期待企業認定を目指している企業に対して、申請書作成の指導を実施した。

#### 6-9 センター業務の公開・周知

① ホームページの更新（年7回）

6月、9月、10月、1月、2月、3月（2回）に更新

1年間のアクセス件数：3,098件

② 情報誌「2018 技術情報」第36号の発行（3月発行200部）

③ メールマガジンの発行（年9回）

6月、7月、10月（2回）、11月、1月、2月（2回）、3月に発行

④ 見学受け入れ

延べ78名

## 6-10 企業巡回訪問

延べ99社を訪問し、企業のニーズ調査を行った。

## 6-11 利用者満足度調査

センター利用のサービス水準の向上を目的として、利用者の満足度の調査を行った。利用者118名に送付し47名から回答を得た。回答結果は今後のサービス内容の改善に生かす。

## 6-12 業務推進委員会

センター運営の充実や改善を図るため、県北企業の代表者や幹部ならびに行政機関や関係団体の担当者（計10機関）を訪問し、センターに対する意見や機器設置の要望等の聞き取りを行った。今後、意見や要望をもとに、機械設備の整備や運営方法の改善を検討する。

## 6-13 機械技術センター連携促進事業に関する業務

### 6-13-1 県北地域のイノベーション創出のための取り組み

県が策定した「みやざき産業振興戦略」に基づいて、産学官の24機関で組織する「イノベーション共創プラットフォーム」と連携し、県内に埋もれた技術シーズの発掘・事業化を支援した。

#### ① 「宮崎テックプランター」事業への参画

（宮崎テックプランターとは、県内企業が抱える技術的課題について、県外の大企業等と連携することで解決策を探るなど、技術シーズの事業化を後押しする創業支援プログラム。）

県北部地域の企業を中心に広く周知するとともに、新事業に取り組む県内企業等のニーズ・シーズを把握し、県北企業の宮崎テックプランターへの参加を支援した。

#### ② 「マッチングのためのラウンドテーブル」の開催（平成29年10月12日、延岡総合文化センター）

大学が持つ研究シーズと県北部地域の企業ニーズを結びつける「出会いの場」を設けることによって新事業展開を図ることを目的に、宮崎大学と共催で実施した。3人の講師の研究シーズを紹介し、参加企業の技術者と意見交換を行った。（参加者10名）

#### ③ 「東九州ものづくり交流展」への参画（平成30年2月22日・23日、旭化成向陽クラブ）

大分県南部の企業と県北地域の企業との交流や連携を深めるために、（一社）県工業会県北地区部会や延岡市等と連携して東九州ものづくり交流展の企画に参画し、展示会に出展した。（出展35機関、来場者613名）

### 6-13-2 機械技術センターの利活用促進の取り組み

#### ① センター利用者の新規開拓

県北地域のものづくり企業等を新たに訪問し、利用促進のPRを行った。

#### ② 設備紹介パンフレットの改訂

センターに設置されている設備機器の紹介パンフレットの改訂版を作成し、関係機関に配布した。

#### ③ 職業体験実習生の受け入れ（平成29年10月24～26日）

日向市キャリア教育支援センター等が主催する「14歳のよのなか挑戦」に参画し、日向市立大王谷学園中等部の生徒2名について職業体験学習の受け入れを行った。

## 公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

本協会は県内の機械金属工業の振興を目的として、宮崎県・延岡市・日向市・門川町の出資により、昭和 54 年 2 月 17 日に設立され、平成 25 年 4 月に公益財団法人に移行し、次の事業を行っている。

- (1) 機械金属工業の技術指導及び調査研究
- (2) 機械金属工業に関する情報及び資料の収集
- (3) 宮崎県機械技術センターの管理運営
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

なお、宮崎県機械技術センターの管理運営は、平成 18 年 4 月より指定管理者制度を導入し、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項、宮崎県の公の施設に関する条例(昭和 39 年宮崎県条例第 7 号)第 10 条の規定に基づき宮崎県より委託されており、また、機械技術センター手数料等の徴収事務も委託されている。

### 役員名簿

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

評議員	迫田 隅 男	(九州保健福祉大学学長)
評議員	酒井 剛	(宮崎大学副学長)
評議員	緒方 哲	((公財)宮崎県産業振興機構理事長)
評議員	黒木 裕 孝	((一社)宮崎県工業会専務理事)
理事長	読谷山 洋 司	(延岡市長)
副理事長	吉 玉 典 生	(延岡鉄工団地協同組合理事長)
理事	黒木 清	(延岡商工会議所専務理事)
理事	黒木 正 一	(日向商工会議所専務理事)
理事	甲 斐 睦 央	(延岡地区建設業協会事務局長)
理事	浜 本 和 樹	(日向地区建設業協会事務局長)
理事	甲 斐 秀 明	(高千穂地区建設業協会事務局長)
理事	片 山 俊 之	(旭化成(株)延岡総務部長)
理事	津 田 洋 行	(旭有機材(株)管理本部総務部延岡本社担当部長)
理事	中 園 徹 郎	((株)中園工業所代表取締役会長)
理事	甲 斐 俊 二	(延岡市商工観光部長)
理事	清 水 邦 彦	(日向市商工観光部長)
理事	岩 田 一 男	(門川町まちづくり推進課長)
常務理事	久木崎 雅 人	(宮崎県機械技術センター所長)
監 事	柳 田 隆 晴	(元門川町商工会事務局長)
監 事	酒 井 修 平	(延岡市シルバー人材センター理事長)